



このたび埼玉県立大学は、卒業生・修了生やご関係の皆さまに向け、最新の本学の様子や出来事を紹介する広報紙「つなぐ～県大の輪～」を創刊しました。

言葉どおり、皆さまと本学とをつなぐ存在になれば幸いです。ぜひお手に取り、お楽しみください。

(特集)
あゆみ 埼玉県立大学の
2022

1999

Contents

- 04 卒業生の活躍／理事長コラム
- 06 教員からのメッセージ
- 07 埼玉県立大学と地域社会

- 08 県大生の今
- 10 特色ある研究活動
- 11 トピックス／学長だより

人とつながる、人を育てる。

1999年(平成11年)に開学した埼玉県立大学は、教育理念「連携と統合」のもと、6,500名を超える卒業生・修了生を輩出して参りました。その過程を懐かしい写真とともに、振り返ります。

1999 埼玉県立大学 開学

保健医療福祉部内に看護学科・理学療法学科・作業療法学科・社会福祉学科を置く、1学部4学科体制でスタートしました。同時に、前身校である埼玉県立衛生短期大学を埼玉県立大学短期大学部に改称・同一敷地内に移転しています。周囲の田園風景と調和する開放感のあるキャンパスは、グッドデザイン金賞を受賞しました。



外観



吹き抜けの構内



屋上ウッドデッキ



2012 彩の国連携力育成プロジェクト開始

埼玉医科大学、城西大学、日本工業大学と本学の4大学共同プロジェクトで、それぞれの学生がともに実習を行うことで、専門職連携教育の質向上を図るものです。

昔と今 ① 実習・授業風景



2000年頃



2018年頃

授業風景も大きく変わりました。現在では、ノートPCやタブレットを持ち込んで講義を受けています。

大学歌制定



歌詞には、本学の特徴と基本理念が織り込まれており、当時の在学生在が作詞しました。本学HPでぜひ聞いてみてください。



2022 広報紙「つなぐ～県大の輪～」の創刊



1999 (H11)

シンボルマーク制定

本学のイニシャル「S」を人と人が手を取り合う形で表現したもので、「連携と統合」を象徴しています。



埼玉県立大学
シンボルマーク

2001

2006 (H18)

健康開発学科を設置

(健康行動科学専攻・検査技術科学専攻・口腔保健科学専攻の3専攻)

短期大学部を統合

2006 IP演習スタート(現:IPW実習)

全5学科の4年生がチームを組んで、病院や福祉施設等の利用者に最適なケアを検討する、本学の専門職連携教育 (IPE:Interprofessional Education) を象徴する演習がスタートしました。



2009

大学院保健医療福祉学研究科 修士課程(現:博士前期課程)を設置

公立大学法人化

2012 (H24)

2014

社会福祉学科を社会福祉子ども学科へ改組 (社会福祉学専攻・福祉子ども学専攻の2専攻)

2015

基本理念(陶冶・進取・創発)の制定

大学院保健医療福祉学研究科 博士後期課程を設置

2016

2019

学章制定

「Saitama Prefectural University」の頭文字「SPU」を組み合わせたデザインで、埼玉県民の鳥であるシラコバトを表現しています。



埼玉県立大学 学章

2022 (R4)

昔と今 ② 清透祭

本学の学園祭「清透祭」の名前には医療福祉に求められる清潔感や透明性、正統性などが込められています。



2000年



2011年



2019年

昔と今 ③ 卒業式

色とりどりの袴が並び賑やかさは、今も昔も変わりません。なんと昔は、埼玉県マスコット「コバトン」が卒業のお祝いに来てくれていました。



2008年



2019年

いまどこで
なにしてる?
**卒業生の
活躍**



保健医療福祉学部 看護学科 2009年度卒

青木 浩司さん
AOKI Koji

「世界はなんて広く、なんて面白いんだ!!」

コンサルタントという仕事に就いて6年目が間もなく終わる今の率直な感想です。私のこれまでの人生は、自信をもって「先の見えない道を進んでいる」と言えます。高校卒業後に4年間のブランクがあり、その間の様々な経験から国際保健に興味を持ちました。そして埼玉県立大学に入学した当初から、「国際保健に関心があります!!」と主張し続けましたが、具体的なプランは皆無でした。それでも、決して見捨てられることなく、様々な提案を、後押しを、時にはダメ出しをしてもらったことで、今の自分がいるのだと思っています。

大学卒業後、国立病院で勤務する中で、「保健課題は保健の知識だけでは解決できないこと」と「今の自分の武器では国際保健に立ち向かえないこと」を強く感じ、大学院（修士課程）で公衆衛生学を学ぶことを決めました。社会学、経

済学、マネジメント学等を学び、多面的に人の健康を観る重要性に気が付き、それが現在の職の原動力となっています。「それでも足りない。自分の尖った武器が欲しい」という気持ちから、さらに大学院（博士課程）に進学し、誰にも負けない武器を磨くために精進しています。

現在はウズベキスタンで複数の案件に関わっています。日本と他国では医療状況も文化・信念も異なり、一律的な考えでは人々の健康に貢献できません。常にアンテナを幅広く、これからも「健康とは何か?」という命題に取り組んでいきたいと考えています。

Profile //
大学卒業後に国立病院で勤務した後、大学院(修士課程)に進学・修了。現在は開発コンサルタントとして国際的な仕事に取り組みながら、大学院(博士課程)に進学し研究を行っている。

勤務先

▶▶▶ **株式会社国際テクノ・センター**

現在の仕事内容

- ウズベキスタン国医療サービス強化事業準備調査 (保健計画)
- ウズベキスタン国非感染性疾患予防対策 プロジェクト(NCD対策) など

「やりがいは、一人ひとりがいろんな場面で

『主人公』になる瞬間を見られること」

私の仕事は、住民が自分の暮らす地域に必要な仕事を創ることに、協働して共に取り組むことです。

私はこの10年、東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県沿岸部の市町村での仕事おこしに関わってきました。中でも、一番深く関わってきたのは大槌町です。人口約10,000人の町で、震災で人口の約1割の方が亡くなるという大きな被害のあった町です。初めは私たちの活動に興味を持ってくれた町民と一緒に町内のニーズ調査や資源探しを行いました。

いろんなアイデアが出ましたが、現在の活動につながったのは一緒に働く仲間の困りごとでした。発達障害のある小学生を育てていて、「大人数の学童だと馴染めないけれど、他に預

ける場所もない」。その声から、共生型福祉施設(学童保育、高齢者デイサービスなど)の立ち上げにつながりました。現在は、地域の居場所づくりを住民ボランティアの皆さんと創ることに挑戦しています。

何もないところから事業を創っていくということは、知識も経験も足りず、つまずいてばかりです。しかし、その過程で関わる一人ひとりがいろんな場面で『主人公』になる瞬間があり、それを見るのが仕事のやりがいとなっています。

大学時代、ちゃんと勉強した記憶はありませんが、個性的な先生達から学んだ「福祉の心」を福祉の世界の中だけじゃなく、社会のいろんな所で広げていくことに少しでも貢献したいと考えています。



保健医療福祉学部
社会福祉学科 2007年度卒

古澤 光さん
FURUSAWA Akira

Profile //
大学卒業後にワーカーズコープに就職。山口県に2年、愛媛県に2年を経て、東日本大震災後、岩手県に異動し、現在10年目。妻と子1人の3人家族。最近の楽しみは、自ら創った草野球チームで野球をすること。

勤務先

▶▶▶ **特定非営利活動法人ワーカーズコープ**

現在の仕事内容

- 地域住民と協働しての仕事おこし
- 福祉施設の立ち上げ など

「歯科衛生士という幹を育てて、

幹が育った後は色々な分野の枝を伸ばしていく」

これは、学生時代の一番心に残った先生の言葉です。その言葉通りに3年間は基本的な歯科衛生士業務を学べるクリニックに勤めました。頼れる先輩方から基礎を多く学んでいる中、審美歯科に興味を持ったことをきっかけにホワイトニングに特化したクリニックへ転職しました。そこでは、ホワイトニングだけではなく自費診療につなげるための接遇についても学びました。現在は、今まで学んできたものを地元で還元するため、市立の障害者歯科で勤務しています。

現在の職場は公的な医療機関のため、計画的な予算の使い方をします。耐用年数を踏まえた機器の入れ替え、来年の予算作成など、事務的な業務も歯科衛生士の仕事です。それをこ

なすためには機器や材料の相場・欠品情報や最新の滅菌消毒情報などにアンテナを張り、常に情報を仕入れることが必要です。

学生当時は30人1クラスで2年間席順も変わらず、隣の席の友達ととても仲良くなり毎日登下校を一緒にしていました。電車の中でテスト勉強をしたりして、毎日楽しく登下校できたおかげで2年間欠席することはありませんでした。今はその親友と同じ職場です。学生時代のスケジュールは忙しかったのですが、尊敬できる先生方にも恵まれ、全て良い思い出です。大学での学びや人との出会いは、私の核となり、今でも歯科衛生士の仕事にやりがいをもち続けられる理由です。



短期大学部
歯科衛生学科 2005年度卒

山田 裕子さん
YAMADA Yuko

Profile //

大学卒業後、実習先に就職。歯科衛生士としての基礎を学んだ後は審美歯科へ。2012年より地元で障害者歯科に従事。私生活ではわんぱく2児の母。

勤務先

▶▶▶ **川越市ふれあい歯科診療所**

現在の仕事内容

- 障害者歯科診療補助 ● 歯科予防処置
- 歯科保健指導 ● 事務(在庫管理を含む予算、決算) など

理事長コラム 卒業生こそ大学の宝



たなか しげる
理事長 **田中 滋**

Profile //
・公立大学法人埼玉県立大学理事長/慶應義塾大学名誉教授
・現在の主な公職:社会保障審議会会長(介護給付費分科会長・福祉部会長)、医療介護総合確保促進会議座長、協会けんぽ運営委員長

私は「埼玉県立大学を日本一の大学に」と唱えています。現在、本学がすでに日本一を名乗れ、それにさらに磨きをかける項目は何でしょうか。広報紙第1号ではこの点を語ることにします。

教育面では言うまでもなく、専門職連携実践(IPW)を推進するための専門職連携教育(IPE)を実践してきた、開学以来の歴史に他なりません。4大学協働による幅広い演習は、卒業生の皆さんにとってもなじみ深いでしょう。そして日本一の連携教育を受けたことを大いに誇ってください。なおIPEをめぐる課題として、教科書が古くなってきたと意識され、現在新版を目指して関係教員による作業が行われています。

もう一つの日本一候補は、自治体における地域包括ケアシステム実践を本学が支援する地域貢献です。2020年、大学の研究開発センター内に自治体を支援するため

の「地域包括ケアマネジメント支援部門」を開設し、県内市町村から相談を受け随時支援を提供しています。同部門は見える化システムを使ったデータ集を作成し、希望自治体に無償で提供する貢献も行ってきました。

地域包括ケアシステムの始まりは医療介護連携でしたが、2021年の介護報酬改定では、リハビリテーション+栄養ケア+口腔ケアが中核的要素として位置づけられ、本学各学科の役割はますます高まりつつあります。他方、85歳以上人口の急増に備える必要性和、コロナ禍が加速させつつある経済格差拡大の実情を踏まえると、健康行動と社会福祉分野に対する期待も同じく大きくなり続けるでしょう。

IPWも地域包括ケアシステム実践も、各地域における卒業生の力が重要です。時代に合わせ、ではなく時代を先取りする進化の源泉として期待しています。



卒業生・修了生の皆さま、くれぐれも健康に気を付けて、ますますの活躍を期待しています。
ぜひその姿を見せに、大学に遊びに来てください。

▶ 本学での教員生活の思い出

朝日 6,500名を超える埼玉県立大学卒業生・修了生の皆さん！教員生活が長い私たち3人からメッセージを送ります。

まず、卒業生の顔を思い浮かべた時に、先生方はどんなことを思い出しますか。

鈴木 私は、開学当初の「健康と生活」という科目で、PBLチュートリアルという学生主体の学習方法をやってみようと、もの凄く一生懸命やったことを思い出します。

学科を混ぜてグループワークをさせたのですが、教員も初めてで、どう進めて良いか戸惑いながら、まだ手法が浸透していない時代に、本当に苦労して創りあげました。

あと、実習指導に行くと、看護部長さんが県大生は優秀だと言ってくださるので、教員冥利に尽きるというか、埼玉県立大学で働いてきてよかったと思う瞬間です。

朝日 卒業生の活躍は、かつての「連携と統合の教育」、現在の「IPE活動」の賜物ではないかと思いますが、いかがですか。

原 そうですね。本学では2006年からIP演習（現：IPW実習）が必修化されています。学生自身が色々な職種の方に現場でインタビューし、それぞれの専門性を生かして、どのようなケアをするのかを実践的に考える。このような

実習は、当時、他大学にはなく、教育環境を創るにあたっては、地域の病院や施設の方に大いに参画していただき、今があります。

IP演習では、学生がそれぞれ専門的な意見をぶつけあい、利用者のために連携していく。そのような形が自然にできあがったことに、非常に感心したことを思い出します。

授業では、私の実技試験が難しく、何回も落とされる学生もいたのですが、それが今は現場を引っ張るリーダー、実践力ある専門職として育ち、さらに本学の教育にも協力してくれるなど、とても良い関係が築けています。

朝日 私も全学生の必修科目である「ヒューマンケア論」を担当してきたので、学生とのつながりをとても強く感じています。一方、学習活動だけでなく、サークル活動や清透祭などについても思い出深く、開学後間もなくできたサークルの中にも、今なお活発に活動している団体もたくさんあります。

今年度の清透祭はコロナウイルスの影響でオンライン開催になりましたが、伝統はずっと受け継がれており、花火の光景を思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。

また、卒業生同士、あるいは在学生と卒業生と一緒に活動し、勉強しあう機会もたくさん見受けられます。アドバイザー制度、学年間の交流が、学科専攻だけではなく、学年やあるいは

在学、卒業の枠を超えて交流していくのも埼玉県立大学ならではの強みではないかと強く感じています。

▶ 卒業生・修了生の皆さまへのメッセージ

朝日 では、卒業生・修了生の皆さんへのメッセージをお願いします。

原 卒業生の皆さん、一人であまり頑張りすぎず、我々を頼ってください。ぜひ大学に帰ってきて、顔を見せてください。「帰ってきました」と一言声を掛けてください。

鈴木 卒業生は大学の宝物です。でも、いつもキラキラ光って輝いている時ばかりではなく、調子の悪い時もあります。細く長くで良いから働き続けて欲しいと思います。くたびれた時、それから新しいことにチャレンジしたい時、大学をぜひ頼って欲しいと思います。またお会いしましょう。

朝日 私たちは色々な意味で卒業生とつながっていたいと思っています。そのために、大学のホームカミングデーや、卒業生現況調査などを通して、皆さんのニーズや現状について聞かせていただく機会を増やしていきたいと考えています。大学の思い出を浮かべていただき、これからもぜひ大学との付き合いを長く大切にしていいただければと思います。

今回お話を伺った先生方



朝日 雅也 教授 //
社会福祉子ども学科/
学長補佐・高等教育開発センター長
1999年に着任。専門は障害者福祉・職業リハビリテーション・就労支援。



鈴木 幸子 教授 //
看護学科/副学長・学部長
1999年に着任。専門は母性看護学・助産学。



原 和彦 教授 //
理学療法学科/理学療法学科長
2000年に着任。専門は生活環境支援理学療法・義肢装具学。



せんげん台・越谷新発見／再発見
地元が詰まった『ガーヤちゃんの町自慢』弁当

2021年秋、越谷市千間台にあるイオンスタイルせんげん台のお弁当売り場に入りができていました。お客さんのお目当ては『ガーヤちゃんの町自慢』をコンセプトとしたお弁当。一時はお弁当作りが間に合わないほどの売れ行きでした。

このお弁当は、本学とイオンスタイルせんげん台のコラボ企画として、「民俗学」を担当する浅川准教授（共通教育科）と看護学科の学生2名が参画・提案し、完成させたものです。せんげん台・越谷地域の文化や歴史をお弁当に生かすというコンセプトから、宮内庁埼玉鴨場にちなんだ「鴨」と地元特産として名高い「越谷ねぎ」を使った炊き込みご飯や2種類のコロッケが入った彩り豊かなお弁当が完成しました。「越谷の民俗や特産物からお弁当を考えていくのがとても面白く勉強になった（学生）」と学生にとっても、有意義な企画となりました。

このように本学は様々な企業と産学連携の取組みを行っています。皆さまの身近なところにも本学が関わっている商品や研究があるかもしれません。ぜひ探してみてください。

※ガーヤちゃん：鴨とねぎにちなんだ越谷市のPRキャラクター



▲試作中の学生と浅川准教授



◀お弁当 ※現在は販売されていません

一般の方向け公開講座

夏休み子ども講座『身近なものからDNAを取り出そう!』開催レポート

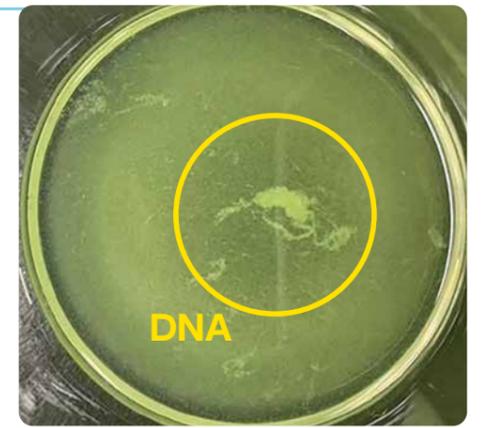
本学では一般の方が受講できる公開講座を開講しています。保健・医療・福祉分野を中心に、子ども向けから高齢者向けの講座まで、対象別に幅広いラインナップを揃えています。その中から、2021年夏に行われた夏休み子ども講座『身近なものからDNAを取り出そう!』（講師：白土准教授（検査技術科学専攻））をご紹介します。

DNAは直径5億分の1メートルと、とても目に見えないものでもなく、あまり馴染みがないかもしれませんが、しかし実は身近な物質から簡単に取り出し、観察することができます。今回はオンラインでの開催で、子どもたち自らがプロットローや無水エタノール等を準備し、画面越しの説明を受けながら実験を行いました。途中、少し難しい手順もあったようですが、全員がDNAの観察に成功、最後は歓声が上がりました。「自分のDNAのことも知りたくなった」とのコメントもあり、子どもたちの好奇心をくすぐる、楽しい時間となったようです。

これはほんの一例で、他にも多種多様な講座を開講しています。まだ参加したことのない方は、ぜひ一度、参加してみませんか？楽しい時間や新しい発見が待ち受けているはずです。



▲他の講座はこちらをチェック!!



▲観察したDNA

自治体や諸団体と協定を結び、様々な取組みを行っています



▲吉川市との包括協定（2021年）

本学のモットー「人とつながる人を育てる」は皆さんご存じと思いますが、本学では「地域とつながる地域を育てる」取組みも進めています。

保健・医療・福祉の知の拠点として、地域社会や自治体等が抱える諸課題の解決や心豊かな発展につながる貢献を目指し、越谷市をはじめとして県内6市、県外1市と協定を結んでいます（2022年3月現在）。

協定の内容は様々ですが、2021年5月に包括的な連携協定を締結した吉川市とまずに、子育てや保育事業への支援の取組みが始まるなど、着実に協定が実を結んでいます。

こうした協定は地域・自治体のメリットはもちろんですが、大学にも「実践を通じた人材育成」「教育・研究活動へのフィードバック」など大きなメリットがあります。さらに、地域での活動は、地域の皆さんが大学を知り、大学を理解し、大学を応援することにもつながっていきます。

県大生の今



現在の埼玉県立大学では、先輩方の思いをつなぐ学生たちが日々学習に励んでいます。これまでのような授業や実習の実施が難しい状況ですが、教職員と学生様の様々な工夫や努力、協力により質の高い教育が提供されています。コロナ禍により導入されたオンライン授業や最新機器による技術の習得など、困難な状況下でも県大生はたくましく学んでいます。未来を担う県大生の活躍を楽しみにしててください。



▲学内で行われた対面授業



▲感染対策をして実習を行う様子



▲3Dプリンターを使用して自習する学生



▲一席ずつ間隔を空けて配置された学生食堂

昨今の社会の変化に伴い、県大生の学生生活もここ2、3年のうちに大きく変わってきました。困難もありますが、教職員・学生ともに歩みを止めることなく、未来の保健医療福祉を支えるために日々邁進しています。

卒業生・修了生の皆さまは、忙しい日々の中、変わらずお元気にお過ごしでしょうか。様々な環境の中で活躍されていることでしょうか。県大の先輩として、人生の先輩として、今後とも本学の教育活動ならびに県大の後輩達の頑張りを温かく見守っていただけますと幸いです。また皆さまに笑顔でお会いできる日を楽しみにしております。



高等教育開発センター副センター長 東 宏行 教授

サークル活動

新型コロナウイルス感染症の影響で2020年度はサークルの活動ができませんでしたが、2021年度は少しずつ活動を再開しています。

現在活動中のサークルについては、こちら



アカペラサークルJoy

アカペラサークルJoyです♪昨年度はコロナ禍で対面の活動が制限され、活動継続が厳しい日々が続いていましたが、今年度はリモート形式で新人ライブと清透祭ライブを行いました！今後は感染対策を徹底しつつ、少しずつ対面での活動を再開していく予定です！



サッカー部

我々サッカー部は「魅力あるチーム」をモットーに、練習では全員でお互いのプレーを評価、アドバイスをし高めあっています。現在リーグ戦にも参加しており、1試合1試合勝利を目指し最後まで諦めず戦っています。活動が再開したばかりでうまくいかないことも多いですが、チーム一丸となり頑張っています。



清透祭

新型コロナウイルス感染症の流行が予断を許さない状況を鑑み、「清透祭」については、昨年度に引き続きWEB上でのオンライン開催として10月30日(土)・31日(日)に行われました。

サークル発表等の企画が清透祭実行委員会のホームページで公開されるとともに、当日はキャンパスから録画及び生放送(YouTubeで公開)で企画が行われました。また、今年度は締めくくりの花火の打ち上げを再開し、大輪の輝きが夜空を彩りました。



実行委員会HPで
2022年8月末まで見逃し配信中



特色ある 研究活動

研究の知見を社会実装する ～ 上肢運動療法の 技術教育装置の開発～



作業療法学科／研究開発センター長
作業療法士

濱口 豊太 教授

HAMAGUCHI Toyohiro

研究は数多くの討議・失敗・障壁を乗り越えて実用化されます

STUDY's POINT

本学における研究開発の取組み

本学では研究推進委員会により、教員や研究員の支援が計画され、実施されています。研究活動には資金が要りますので、学内の研究費はもとより、学外の競争的研究資金や受託研究を得てそれぞれの研究活動が進められています。とても頼もしいことに、学部生と大学院生、さらに修了生たちが大学院研究員として本学に所属し、教員とともに研究に参加して成果をあげられるようになってきました。

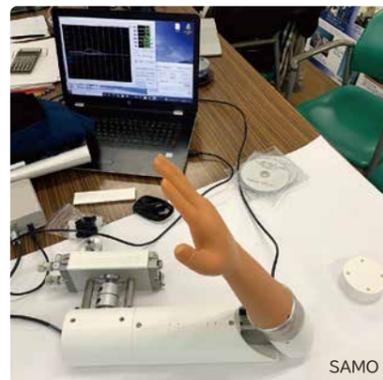
より良い教育のための研究

研究は多様な目的と方法をもって進められますが、どのような領域でも優れたアイデアを社会で実現できるように努められています。ここで1つの例をご紹介します。

リハビリテーション教育において学生は臨床での実習で患者さんに直接触れるまで、運動麻痺の腕にはどんな筋肉の緊張がみられていて、関節を他動的に運動させるとどんな反応がみられるのかについて知ることはほとんどできません。また、ベテランの作業療法士が患者さんに徒手的に運動療法をしているときに、どのくらいの力で関節を動かしているのかを知ることはなかなかできませんでした。

そこで私たちは、2018年に「上肢運動学習装置、特許第6425335号、開発コード

Samothrace: SAMO」を考案・開発しました。これは運動麻痺となった上肢を機械的に再現したアームロボットで、上肢運動療法の手法を学ぶための装置です。このロボットが表現する筋緊張が高い患者の反応に合わせて人間が関節を動かしたときの角度、角速度、モーメントなどを計測して、上肢運動療法を可視化することができます。

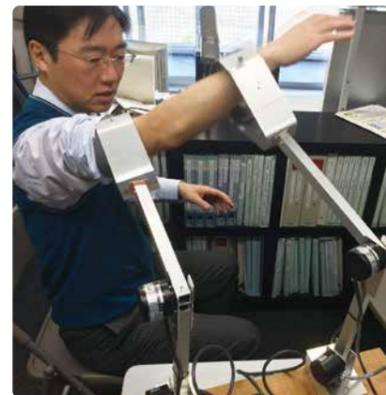


社会実装に挑む

SAMOは、患者の上肢関節運動をプログラムされたアクチュエータ（駆動装置）で筋緊張の高低を表現できるようにしてあり、関節運動角度範囲と速度から運動学的特徴を解析し、ベテランの作業療法士が動かしたのか、学生が動かしたのかを判別できます。1号機から4号機まで

開発が進み、埼玉県内の企業により製品化されました。そしてさらに教育実験が進み、臨地実習に行く前の学生に上肢運動麻痺の測定と運動療法を体験学習させることができる段階に入ります。

研究は社会に役立つアイデアを実現するためにいくつもの討議「魔の川」を通過して実施され、たくさんの失敗と「死の川」と呼ばれる実用化への障壁を乗り越えて社会に利用できるものだけが残って実用化されます。それでも直ぐに新しい製品によって淘汰されていきます（ダーウィンの海）。これからも幾多の試練を突破して、本学のアイデアが社会に実装されていくことでしょう。研究が教育に役立つように、皆さんの身近にある課題の1つを解消できるように、今このときも研究は進んでいます。



トピックス

2021年度入学式

2021年4月2日、埼玉県立大学・大学院入学式を挙行し、保健医療福祉学部428名・保健医療福祉学研究所30名の新生が入学しました。参加者を学生・教職員に限定の上、学科・専攻ごとに会場を分けるなど感染症対策を徹底しての開催で、インターネットによる生配信も行いました。



講堂の様子



各会場に中継配信

全学ホームカミングデーの開催結果

卒業生・修了生の皆さまと本学をつなぐ「全学ホームカミングデー」。例年はキャンパス内で開催しておりましたが、2020年度・2021年度は特設サイトによる動画配信での公開となりました。皆さまご覧いただけましたでしょうか？

大学事務職員（本学の卒業生!!）による学内紹介やキャリアセンターからの就職情報等に加え、秋山教授（看護学科）による特別講座「幸せに人をケアするためのセルフ・コンパッション～自分への思いやり～」を行いました。

“他人のために献身的に尽くし、自身へのケアに中々気を配れない環境で働いている方”に響くとも良い研修だったと、大変ご好評いただきました。

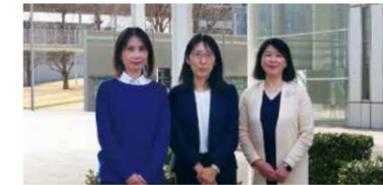


本学卒業生による学内紹介動画

保健所支援を行っています！

新型コロナウイルス感染症の拡大により業務がひっ迫した保健所業務を支援するため、埼玉県からの要請により保健師・看護師資格を持つ教員25名が延べ200回以上（2022年2月現在）に渡り、電話相談などの応援活動を実施しています。

支援を行った関教授（看護学科）は、思いもかけず目にした保健師として懸命に働く卒業生の姿に「健康観察や不安への対応等、感染症対策に取り組む続ける卒業生に感謝の気持ちでいっぱいです」とコメントしています。



最初に派遣された先生方
(左から新村准教授、関教授、星野准教授)



応援活動の様子
(手前から飯岡教授、善生准教授)

本学学生が活躍しています!!

本学では毎年たくさんの学生が研究や地域活動の分野で栄誉ある賞を受賞しています。ここではその一部を紹介します。学生の皆さんおめでとうございます!!



専門リハビリテーション研究会
第20回学術大会 最優秀発表賞
保健医療福祉学研究所
博士前期課程 リハビリテーション学専修
千葉 弘樹 さん

日本医療検査学会
第53回大会 JACLaS Award 1 受賞
保健医療福祉学部
健康開発学科 検査技術科学専攻
神永 瞳 さん



学長だより



学長 **ほし ふうみこ**
星 文彦

Profile
博士(障害科学) / 理学療法士
2007年に埼玉県立大学に着任。理学療法学科長や地域産学連携センター所長を歴任し、2021年から現職。

SPU連携と絆 ～卒業生・修了生の皆さまへ～

私は2021年4月に学長を拝命しました。新型コロナウイルス感染症拡大の最中のパトナタッチでしたが、菅野一則前学長のリーダーシップと適切な対策により、学内でのクラスター感染は未然に防げ、現在は学内活動の再開が進んでいます。

2年以上に渡り、卒業生及び修了生の皆さんが病院・施設あるいは企業等で感染拡大と戦い、ご尽力いただいたことに対して敬意と感謝を申し上げます。また、臨地実習に際しては、コロナ禍にも関わらず実習を受け入れ、指導の工夫をしてくださりました。心から感謝申し上げます。

本学は、専門職連携教育（IPE）を通して、人と人とのつながりが地域・社会づくりの基盤であるという観点から、教育の基本である連携教育を開学から22年間継続し深化させてきました。学部教育から大学院教育へつながり、さらに2021年度から学校教育法に基づいた履修証明プログラム「IPW総合課程」を開設し、

現任者教育・地域連携事業として位置づけました。これにより一連の専門職連携教育システムを形成することができました。

卒業生及び修了生の皆さんにとって本学で学んだ連携教育は、専門職間の連携のみならず、職場での人間関係作りや地域での助け合いの価値観として息づいていることと思います。今後ますます、職場や地域づくりのリーダーとなつて活躍し、進化していくことを期待しています。

最後に、後輩のためにより一層のお力添えをいただきますようお願いいたします。本学での修学の成果は、皆さんの活躍そのものです。在学生は卒業生及び修了生の活躍を見聞きすることにより目標を明確にすることができ、ホームカミングデーのみならず、学科・専攻及び専修の教員・在学生・卒業生・修了生間の交流やイベント、そして今回発行となりました「SPU連携と絆」をさらに大きくしていきます。

タイトルに込めた思い

広報紙タイトル「つなぐ～県大の輪～」は、学内募集の結果、在学生の新井綾菜さん（理学療法学科）、ほか教職員2名の案により決定しました。

「埼玉県立大学と在学生・卒業生・修了生・教職員・その他関係の皆さまとをつなぎ、人と人の輪を大きく広げていく、親しみやすい広報紙になるように（新井さん）」との思いが込められています。

専門職連携を学ぶ講座のご案内

本学が開学以来、全国に先駆けて取り組み、今や保健・医療・福祉系大学の教育プログラムのスタンダードとも言えるIPE（専門職連携教育）。このIPEの実践がIPW（専門職連携実践）で、保健・医療・福祉の現場で強く求められているものです。

そこで本学では、学生への教育に留まらず、現場で働く方々を対象とした専門職連携を学ぶ講座を開講しています。年々、内容の充実・強化を図り、2018年度からは、チームワークを学ぶ「多職種連携基礎研修」と総合的な「IPW総合課程（全8回）」の2つの講座を展開し、2021年度には「IPW総合課程」を学校教育法に基づく履修証明プログラムとしてグレードアップしました。

更に、2022年度からは3つ目の講座として、専門職連携を成功に導くファシリテートスキルを学ぶ「ファシリテータ研修」をスタートします。

皆さん、専門職連携のスペシャリストを目指して、スキルアップしてみませんか。

専門職連携を学ぶ
講座について
詳しくはこちら



卒業生・修了生の皆さまへ お知らせ

●例年、本学では同窓会との共催で、「全学ホームカミングデー」等のイベントを開催しております。今後、本紙でもご案内させていただく予定です。卒業生・修了生の皆さまのご参加をお待ちしております。

県立大学
イベント情報



●本学では、全卒業生・修了生の現況情報の把握に努めています。住所や勤務先等に変更がありましたら、現況調査フォームに入力をお願いいたします。

住所や勤務先等の
変更登録はこちら



ご寄附のお願い

本学の活動にご理解をいただき、ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

寄附の目的

寄附金は次の目的に活用させていただきます。

- 1 教育及び研究の支援
- 2 学生の支援
- 3 国際交流の支援
- 4 地域貢献の支援
- 5 その他大学活動の支援

寄附金額

おいくらからでも結構です。

※金額の目安 【個人】5千円 【法人・団体】5万円

お申込み・お支払い方法

1 インターネットによるお申込み

二次元コードの読み込み、または (<https://www.spu.ac.jp/donation/>) にアクセス（クレジットカード決済、コンビニ支払い、ネットバンキング（Pay-easy）決済が可能です。）

2 インターネット以外のお申込み方法

事務局 財務担当までお問い合わせください。

TEL 048-973-4110

E-mail zaimu@spu.ac.jp

インターネット
申込み



寄附者の顕彰等

- 1 イベント案内・収支報告をさせていただきます。
- 2 ご芳名をホームページに掲載させていただきます。
- 3 ご芳名を銘板に刻み学内に掲示させていただきます。
※ご寄附の合計額が個人10万円以上、法人・団体50万円以上の方
- 4 感謝状を贈呈させていただきます。
※1年間のご寄附の合計額が個人100万円以上、法人・団体300万円以上の方

税制上の優遇措置があります

この寄附は、住民の福祉の増進に寄与するものとして、税制上の優遇措置があります。

（個人からのご寄附）

1 所得税

寄附金額（総所得金額の40%が上限）から2,000円を差し引いた額が当該年の課税所得から控除されます。

2 住民税

寄附した翌年の1月1日現在、越谷市にお住まいの方は、寄附金額（総所得金額の30%が上限）から2,000円を差し引いた額の10%が、寄附した翌年の個人住民税から控除されます。

※越谷市を除く埼玉県内にお住まいの方は4%の控除となります。

（法人・団体からのご寄附）

全額損金算入が可能です。

